

厚生労働科学研究費補助金  
(医薬品・医療機器等レギュラトリーサイエンス政策研究事業)  
分担研究報告書

口腔ケアに対する薬局薬剤師の認識に関する先行調査の論文化

研究分担者 岩田 紘樹

慶應義塾大学薬学部 医療薬学・社会連携センター社会薬学部門 専任講師

研究要旨

歯周病は糖尿病や脳梗塞などの全身疾患の増悪因子にもなり得ることから、薬局薬剤師が地域住民の口腔の健康維持・増進に関わる意義は大きい。我々はこれまでに、薬局薬剤師 324 名を対象に口腔ケアに対する認識を調査しており、今回、研究成果について英文論文を作成した。約 7 割の薬局薬剤師が日常的な口腔トラブルや口腔ケアへの対応を薬局薬剤師の役割として認識していたが、自信度は低く、薬剤師向けの口腔領域の教育・研修（75.6%）が必要であるという意見が多かった。この先行調査の成果は、本事業にて健康サポート薬局の薬剤師による地域住民の口腔ケア支援の効果を検証する上で重要な知見となると考えられる。

A. 研究目的

歯周病は糖尿病<sup>1)</sup>や脳梗塞<sup>2)</sup>などの全身疾患の増悪因子にもなり得ることから、薬局薬剤師が地域住民の口腔の健康維持・増進に関わる意義は大きい。我々はこれまでに、薬局薬剤師を対象に口腔ケアに対する認識を調査し、学術大会にて発表を行った（日本社会薬学会第 39 年会、2021 年）。この先行調査の成果は、本事業にて健康サポート薬局の薬剤師による地域住民の口腔ケア支援の効果を検証する上で重要な知見となると考え、英文論文文化を行うこととした。

B. 研究方法

本先行調査は、株式会社ネグジット総研にモニター登録している薬局薬剤師 324 名を対象として、2021 年 3 月 26 日～3 月 29 日に web 方式の無記名自記式質問紙調査を実施したものである（慶應義塾大学薬学部人を対象とする研究倫理委員会：

承 210323-1）。得られた研究成果について、結果を精査し、英文論文文化を行った。

C. 研究結果・考察

本先行調査で得られていた結果について、以下に簡潔に示す。

日常的な口腔トラブルや口腔ケアへの対応を薬局薬剤師の役割として認識している割合は 66.0%であった。医薬品による口腔関連副作用への対応を薬局薬剤師の役割として認識している割合（87.6%）よりは低かったものの、およそ 7 割の薬局薬剤師が口腔トラブルや口腔ケアへの対応を肯定的に捉えていた。しかし、対応への自信度は口内炎が 52.2%、口腔乾燥が 38.3%にとどまっており、オーストラリア<sup>3)</sup>やイギリス<sup>4)</sup>の報告と比較して低かった。不安要素として、適切な対応方法に関する知識不足（60.2%）や口腔内の症状に関する知識不足（54.9%）が多く挙げられ、

薬剤師向けの口腔領域の教育・研修（75.6%）が必要であるという意見が多かった。我が国の薬局薬剤師による口腔の健康維持・増進の取り組みの推進には、教育・研修の仕組み作りが有用であることが示唆された。

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

D. 結論

我が国の薬局薬剤師を対象とした先行調査について、諸外国の薬剤師に関する報告も引用しながら、英文論文を作成した。今後 Journal of the American Pharmacists Association に投稿を行う。

引用文献：

1. Taylor GW. Ann Periodontol. 2001; 6:99-112.
2. Sen S, et al. Stroke. 2018; 49:355-362.
3. Taing MW, et al. Int J Pharm Pract. 2016; 24:237-246.
4. Mann RS, et al. Br Dent J. 2015; 218:E10.

E. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

1) 岩田紘樹: 健康サポート薬局における口腔ケアの取組み～唾液による口腔内環境チェックやオーラルフレイルチェック～, 第20回日本口腔ケア学会総会・学術大会（招待講演）, 2023年4月.

2) 岩田紘樹: 薬局で行う口腔の健康セルフチェックと口腔ケア啓発の有用, 第26回日本口腔ケア協会学術大会並びに日本口腔ケア学会春季大会（招待講演）, 2024年2月.

F. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし